

エム・エス・ケー「出世大家康くん」

車部品試作技術でロボット製作

浜松商工会議所のロボット製作チームが企画した浜松市のマスコットキャラクター「出世大家康くん」が11月初頭、お披露目された。高さ75㎝、重さ20㎏のロボットで、足元の駆動部品で自走するほか、音声認識の機能も搭載し、あいさつなどの会話もできる。浜松商工会議所は、今後の成長が期待できるロボット産業を育成しようと、加盟企業から有志を募り、開発を進めてきた。製作期間はわずか5カ月。この困難なプロジェクトで中心的な役割を果たしたのが、自動車部品の試作などを手掛けるエム・エス・ケーだった。

エム・エス・ケーは、自動車部品の試作専門メーカーだ。精密板金や機械加工、ダイカスト、プレス成形、粉体造形といったさまざまな金属加工技術を駆使。シートの製作や樹脂の加



エム・エス・ケーの松浦謙代表取締役と「出世大家康くん」ロボ

工などに対応する設備やノウハウも有している。「二輪車のフレームならまるごと作れる」（松浦謙エム・エス・ケー代表取締役）ほどだ。その技術とノウハウは、ロボット製作にも発

揮された。「短時間で作り上げるため、設計データを基に粉末造形で直接本体を製造した。金型などを作らなくても、これぐらいのものなら問題なく製造できる」(同)

同社の本業は、試作品の製造。自動車工場の海外移転などはあっても、試作は日本で終わることから、当面は仕事はなくなることもなさそうだ。とはいえ、品種の減少や開発周期の延長などもあり、自動車メーカーからの部品試作依頼は減少傾向にあるという。

そこで、最近では農機メーカーから農機の部品試作を受注するなど、業容拡大も探っている。部品単体の試作ではなく、複数の部品で構成するモジュールで受注するといった取り組みも進めている。3D(3次元)データへの対応も強化しており、部品試作の底固めには余念がない。

これと並行し、今後はこれまで手掛けていない分野についても、事業の可能性を探っていききたいという。「出世大家康くん」はその契機になった。

「作れるとは思ったが、実際に作ると自信にはなる」(同)

しかし、課題がある。「うちはある意味ではなんでも作れる。しかし、設計ができないし、市場を見極めたりするのも難しい」

(同)という。そこで考えられたのは、いろいろな技術を持った企業が集まって取り組む、というまさにロボットプロジェクトのようなスキームの構築だ。

「専門性の高い中小企業も、集結すれば大企業並みにいろいろなものが作れる。今後も機をみては、こういった新しいものにも挑戦してみたい」(同)

エム・エス・ケーの挑戦には、ものづくり企業が多い浜松らしさを感じるが、実は多くの専門性の高い中堅・中小企業にもあてはまる戦略といえそうだ。

■会社概要

- ▶ 本社＝浜松市浜北区平口5310-2
- ▶ 設立＝1991年8月
- ▶ 資本金＝1500万円
- ▶ 従業員数＝30人
- ▶ 精密板金部品試作、光造形、粉末造形による樹脂モデル、積層金型、金属部品の製作・機械加工、シート試作など